

令和6年度 入学式 式辞(R6.4.8)

校長 杉本 和博

長かった冬を乗り越え、校庭の桜が正に満開を迎えようとしているこの佳き日。令和六年度 立山町立雄山中学校「入学式」にあたり、立山町長様、富山県議会議員様、立山町議会議長様をはじめとする多くの来賓の方々、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、高い席からではございますが、心より御礼申し上げます。

さて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんとは、2月初めの入学説明会でお会いして以来ですが、在校生・教職員一同、今日の入学式を心待ちにしていました。皆さんの方はいかがでしたか。きっと、期待と不安が半分半分といったところでしょうね。でも心配はしないでください。大人であっても新しい環境に飛び込むには勇気がいるものです。それに、小学校で皆さんが下級生を支えたように、中学校でも上級生・先輩が、生徒会でも、学校行事でも、部活動でも、皆さんをきっと支えてくれますよ。

皆さんが入学したこの雄山中学校には、77年の輝かしい歴史と伝統があります。そしてその名は、文武両道の中学校として県下でも知られていて、卒業生の中には、学業や運動、芸術分野で優れた業績を残された方々も多くいらっしゃいます。今日の入学式で全校生徒が揃いましたので、その力を結集し、雄山中学校の歴史と伝統を引き継ぎ、更に発展させてください。期待しています。

ここで、私から新入生の皆さんに2つの事を伝えたいと思います。

まず1つ目は、「富士山の様な人を目指そう」という事です。目標は雄大な裾野、つまり大きな土台をもつ人物になることです。勉強だけ、スポーツだけ、音楽だけ…、それでも他の人が見られない世界まで行けたら、それはそれで素晴らしいことではあります。しかし、江戸時代の大噴火を受けても、富士山が大きく形を変えなかったのは、その雄大な裾野があったからです。是非これから始まる3年間の中学校生活で、勉強はもちろんのこと、心も体も一段と成長させ、大きな土台をもつ人に育ってください。

そしてもう1つは、「失敗を恐れない」そして「互いに失敗を許し合う」事です。私は学校を「失敗が許される所」だと思っています。もちろん取り返しがつかないことは別ですが、そうでなければ、しっかりと「ごめんなさい」と自分の非を認め、次に同じことを繰り返さず、またやり直せば良いのです。失敗から学ぶことはとても多いはずですよ。

さて、保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。教職員一同、大切なお子様をお預かりする責任の重さを心に深く感じております。中学校の時期は、思春期の真っ只中に差し掛かっています。親から見れば、言っていることとやっていることがちぐはぐで、頼りなかつたり歯がゆく思えたりもしますが、これは親からの独立期の始まりであり、少し悲しく感じますが、親にとっても子離れの始まりであります。疑いの

ない親の確かな愛情をかけ続けることに変わりはありませんが、小学校とは違う段階に差し掛かってきたことをご理解いただけると幸いです。

終わりにになりましたが、本日おいでいただいた保護者や来賓の皆様、そして地域の皆様のお力添えもいただきながら、共に協力して次世代担う心豊かなたくましい「雄中生」を育てることをお誓いするとともに、今後の本校の教育活動に、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、式辞といたします。